

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /27）

使い方 本文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この章段の山は「二方向の敬語」と「なり」。ここが取れば点は安定します。

あらすじ＝中納言隆家が「見たこともないすばらしい扇の骨だ」と自慢する。清少納言が「それでは扇の骨ではなく、くらげの骨でしょう」と切り返す。骨のないくらげを持ち出したしゃれに、隆家は「自分が言ったことにしよう」と笑う。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

中納言^①参りたまひて、^②御扇奉らせたまふに、「隆家こそ^③いみじき骨は^④得てはべれ。それを張らせて参らせむとするに、^⑤おぼろけの紙は^⑥え張るまじければ、求めはべるなり。」と^⑦申したまふ。「いかやうにかある。」と^⑧問ひきこえさせたまへば、「すべていみじうはべり。」^⑨さらにまだ見ぬ骨のさまなり。」^⑩となむ人々申す。まことにかばかりのは^⑪見えざりつ。」と、言高く^⑫のたまへば、「さては、扇のにはあらで、^⑬くらげのなり。」と聞こゆれば、「これは隆家が言にしてむ。」とて、笑ひたまふ。

かやうのことこそは、^⑭かたはらいたきことのうちに入れつべけれど、「^⑮一つな落としそ。」と言へば、いかがはせむ。
語注 中納言＝藤原隆家。中宮定子の兄。隆家＝隆家自身の自称。おぼろけなり＝並一通りだ。かばかり＝これほどのもの。かたはらいたし＝きまりが悪い。なくそ＝するな。

A 語句の意味 (1～4)

(1) ③ 「いみじき」(いみじ)の意味

(2) ⑤ 「おぼろけの」(おぼろけなり)の意味

(3) ⑨ 「さらにまだ見ぬ」の「さらに」の意味

(4) ⑭ 「かたはらいたき」(かたはらいたし)の意味

B 文法 (5～11) ※係り結び・呼応・撥音便

(5) ④ 「得てはべれ」について、「こそ」があるため文末が「はべる」でなく「はべれ」になる。このきまりの名を漢字で答えよ

(6) ④ 「得てはべれ」の「はべり」の敬語の種類

(7) ⑥ 「え張るまじければ」の「えゝまじ」はたらきは何か

(8) ⑩ 「となむ人々申す」の「なむ」の結びにあたる語を、本文中から抜き出せ

(9) ⑪ 「見えざりつ」の「ざり」「つ」の意味をそれぞれ答えよ

(10) ⑬ 「くらげのななり」の「ななり」を文法的に説明せよ(もとの形・「な」の助動詞名と活用形・下の「なり」の意味)

(11) ⑮ 「一つな落としそ」の「なゝそ」はどのような意味を表すか

C 敬語と主語 (12～16) ★この章段の山

(12) ①「参りたまひて」について、「参り」の敬語の種類と誰への敬意か。またこの動作の主語は誰か

(13) ②「御扇奉らせたまふ」の「奉ら」「せたまふ」について、それぞれ種類と誰から誰への敬意かを答えよ

(14) ⑦「申したまふ」の「申し」「たまふ」について、それぞれ種類と誰から誰への敬意かを答えよ

(15) ⑫「のたまへ」「(のたまふ)」の敬語の種類と、この動作の主語は誰か

(16) ⑧「問ひきこえさせたまへば」の「きこえ」「させたまへ」について、それぞれ種類と誰から誰への敬意かを答えよ

D 口語訳 (17、20)

(17) ② 「御扇奉らせたまふ」

(18) ④ 「得てはべれ」

(19) ⑤ 「おぼろけの」紙は⑥ 「え張るまじければ」

(20) ⑬ 「くらげのななり」

E 内容・記述 (21～24)

(21) ⑬「くらげのななり」で、清少納言が「くらげ」を持ち出したのはなぜか。くらげのからだの特徴と、中納言が自慢した「骨」とを結びつけて、四十字程度で書け。

(22) 「これは隆家が言にしてむ。」を現代語訳し、そこに表れた中納言の気持ちを簡潔に書け。

(23) 末尾の一文(かやうのことこそはいかがはせむ)を現代語訳せよ。

(24) この章段のおもしろさはどこにあるか。四十字以内で書け。

F 文学史 (25～27)

(25) 『枕草子』の(ア)作者名(イ)ジャンル(ウ)成立した時代を答えよ。

(26) 『枕草子』全体を貫くとされる美的理念を、ひらがな三字で答えよ。

(27) 『枕草子』とほぼ同じころに成立し、作者がともに一条天皇の后に仕えた長編物語がある。(ア)作品名(イ)作者名(ウ)その物語の美的理念を答えよ。

【テスト直前チェック】この三つ ①二方向の敬語＝一つの語の中に「謙譲＋尊敬」が同居する。誰の動作かを先に決めれば、向きは自動的に決まります。 ②「ななり」＝断定「なり」の連体形「なる」→撥音便「なん」→「ん」を書かず「な」。下は伝聞推定。 ③くらげ＝骨がな。この一点がしゃれの正体です。